

**女性の貧困と生活保護制度の運用の問題点****—ジェンダー視点によるセーフティーネットの再構築—**

○ 龍谷大学社会学研究科博士後期課程 王 静 (010219)

キーワード3つ：ジェンダー、生活保護制度、女性貧困

**1. 研究目的**

非正規雇用の規制緩和と社会保障の改悪により、格差と貧困はますます大きな社会問題となってきた。女性の貧困率がほとんどの年齢階層において男性を上回り、とくに高齢女性、母子世帯の貧困率が高い。

社会保障の最後のセーフティーネットと言われる生活保護制度は、他制度から漏れる貧困者の受け皿となっている。しかし、女性貧困の現状をみると、生活保護制度は十分に機能していないといえる。これまでの先行研究では、生活保護制度をめぐる水際作戦、運用問題を中心に研究が行われており、ジェンダー視点から分析した研究はほとんどない。本研究はジェンダー視点から生活保護制度の運用の問題点を検討することを研究の目的とする。

**2. 研究の視点および方法**

本研究の視点はジェンダーである。ジェンダー視点とは社会的・文化的に構築された性別役割に基づく不平等や差別を分析する視座である。ジェンダー視点は男性女性とされる人々が制度や慣習によって異なる扱いを受ける構造を可視化する。

本研究の研究方法は文献研究である。本研究はまず、女性貧困の現状を明らかにする。次に、生活保護制度に関する先行研究を整理したうえで、生活保護の特徴として補足性、世帯単位原則などの問題点をジェンダー視点で検討する。最後、女性の生活保障が実現できる一環としての生活保護制度の運用の課題を検討する。

**3. 倫理的配慮**

すでに公開されている文献および資料を対象にしている。日本社会福祉学会の「研究倫理規定」および「研究倫理規定にもとづくガイドライン」に則して実施する。なお、本研究に関連したCOIは生じない。

**4. 研究結果**

女性の貧困について、阿部の相対的貧困率の分析によると、ほとんどの年齢層において、男性よりも女性の貧困率が高く、その差は高齢期になるとさらに拡大する傾向にある。男性高齢者より、女性高齢者の貧困率が高く、75歳以上の女性高齢者の貧困率は25%を超え、単身女性高齢者の貧困率は4割で、極めて高い水準にある。これまで、女性は被扶養配偶者として家族によって包摂されていた。その

ため、女性の貧困も世帯によって隠されていた。本研究は女性の社会進出、結婚・出産・介護を契機とした非正規雇用の拡大、未婚・シングル女性の増加などの生活実態を分析した結果により、女性の貧困がさらに可視化、深刻化していくことが明らかになった。

生活保護制度は、日本国憲法 25 条「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とする規定に基づき制定された。医療保険、年金保険、雇用保険などの社会保険では最低生活が保障されない場合において、最後のセーフティーネットとして生活保護制度が十分に機能しなければならない。しかし、社会保険の仕組みから陥った多くの女性貧困者が生活保護制度に排除される。

女性が生活保護制度に排除される原因は①保護の補足性と稼働能力の活用、②DV 運用時の扶養義務優先という 2 点に関することを明らかになった。具体的に言うと、保護の捕捉性にもとづく保護の要件は、生活困窮者がその利用し得る資産、能力その他あらゆるものを、その最低限度の生活維持のために活用することである。つまり、生活が困窮していても、通勤、買い物に不可欠な自動車や緊急時に対応する預貯金が制限され、あるいは稼働能力がある場合、生活保護の適用が制限される。また、扶養義務者優先の原則で、家族・親族に経済支援能力があれば、生活保護の受給資格が認定されない。その例として、DV を受けて、夫と別居していた女性は生活保護制度を申請した時、加害者の夫の所得も含めて判定した事件がある。

## 5. 考察

実際には、自立助長を生活保護脱却とする行政運用問題点がある。そして、DV を受けて、夫と別居している女性に対して世帯原則が拡大し、同一世帯で見なす運用が女性貧困に対する補足率が低いという問題が生じされている。

本研究は生活保護制度の運用の問題点を課題にして検討する。これまで、生活保護制度の保護の補足性、資産活用、稼働能力活用に関する先行研究が多く存在する。先行研究は生活保護の漏救と生活保護廃止の原因を厳格すぎる受給要件でまとめている。本研究はそれを解決するために、健康で文化的な最低限度の生活の基準を検証し、必要な資産の保有を認めなければならないと考える。これまで、制度を運用する時、世帯単位で行われる。しかし、いくつかの DV 事例をふまえると、具体的な事例に対して、世帯単位ではなく、個人単位として対応が不可欠である。最後に、一部の窓口の担当職員の初任者職員研修の強化も重要だと考える。